

# 日本バプテスト仙台基督教会信仰告白

制定 1955年3月25日

改訂 2010年3月21日

1986年10月の仙台教会臨時総会で決定された「将来計画大綱」を受け、翌年2月の予算総会で、「信仰告白検討委員会」と「建築企画委員会」の設置が決議された。教会堂を建てるということは、第一義的には資金計画や設計図の問題ではなく、教会が拠って立つところの信仰の問題であるとの認識からである。もっとも仙台教会には設立時からの信仰告白がある。1955年に教会組織した際の資料に、「日本バプテスト連盟信仰宣言を教会の信仰告白として採用する」ことが明記されており、それは今も生きている。しかし、私たち個人の信仰も成長するように、教会の信仰も成長するものであろう。教会設立後半世紀以上を経た今、仙台教会の信仰を改めて振り返り、私たちの言葉でそれを表現し直していくことは、大いに意味のあることである。

2007年4月、仙台教会に新しい会堂が与えられた。時間的には建築が先行したが、信仰という土台の上に教会が形作られていくことを私たちは忘れてはいない。今回改訂した信仰告白は、新会堂を与えられた仙台教会が、今後の教会形成や福音宣教の土台としていくべきものである。

なお、今回の改訂作業にあたり次の点に留意した。

1. 仙台教会内にも様々な信仰的立場があることを前提に、教会の信仰告白は最大公約数的な内容とする
2. それゆえ簡潔なものとする
3. バプテストの立場を大切にする
4. 日本バプテスト連盟信仰宣言の改訂作業の経験に学ぶ（項目立てをしない／聖書主義、キリスト中心主義の表現の仕方）

## <信仰告白>

仙台教会の信仰告白の中心はイエス・キリストであり、その基盤は聖書です。聖書が聖霊の導きによって書かれた信仰の唯一の規範であることを私たちは信じ、次の通り告白します。

イエス・キリストを通して自らを明らかにされた神は、父・子・聖霊として働かれる唯一の神です。父である神は、天地を創造し万物を支配される全知全能の主です。人をご自分にかたどって造られましたが、人は神の創造の思いに従わず、罪を犯し滅びの道を歩む者となりました。

独り子イエス・キリストは、真の神でありながら、父である神の愛のご計画の中で、罪の無い真の人としてこの世に生まれました。そして私たちの罪を贖うために十字架に死に、三日目に復活し、今も愛と恵みをもって私たちを命の道に導いておられる救い主です。

聖霊は何ものにも束縛されることなく、また何ものにも従属することなく私たちに働きかけ、イエス・キリストの真理を明らかにしてください。私たちを信仰に導く助け主です。

仙台教会はキリストの体です。主によって呼び集められている私たちは、共に主の日の礼拝を守り、信仰を励まし合います。礼典は二つです。バプテスマは浸礼を原則とし、イエスを救い主と告白する者に授けます。主の晩餐はパンと杯により、イエス・キリストの贖いを記念して行います。私たちは会衆主義により仙台教会を運営します。それぞれの賜物を用いて仙台教会を建て上げる恵みを、等しく与えられているからです。仙台教会は自主独立の存在ですが、福音宣教のために喜びをもって他の教会とも協力します。

主は今もこの世に働き続けすべてを支配しておられます。私たちは国家が信教の自由と政教分離の原則を守るよう常に目を注ぎつつ、地の塩・世の光としての使命を果たします。そしてこの世のすべての事柄において、主が栄光をお受けになるよう祈りながら、希望を持って共に終末を待ち望みます。

## <解説>

### 「聖書」

旧約 39 卷・新約 27 卷からなる聖書を、私たちは信仰の唯一の規範とします。この聖書以外に信仰の根拠とするものを、私たちは一切持ちません。

### 「神にかたどって造られ」

創世記1章27節には、「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」とあります。神と応答し合いながら生きる者として、また、自分以外の他者と共に生きる者として人は初めから創造されていることを信じます。

### 「主の日」

主が復活された週の初めの日（日曜日）を私たちは「主の日」とし、主の復活を覚え礼拝を守ります。それは神の国の始まりを先取りして覚える日でもあります。

### 「浸礼を原則とし」

全身を水に沈める古くからのバプテスマの方式である浸礼を私たちは大切にします。古い命に死に、主による新しい命に甦ることを象徴する最も相応しい方式であると考えます。特別なケースに関しては、執事会で十分に検討し総会で結論を出します。

### 「イエスを救い主と告白する者」

イエスをキリストと告白する者に対してバプテスマを執行します。幼児に対しては執行しません。特別なケースに関しては、執事会で十分に検討し総会で結論を出します。

### 「パンと杯」

主の晩餐は主の贖いの業を記念して行います。主の晩餐では、私たちはパンとぶどう液を用います。ぶどう酒ではなくぶどう液を用いるのは、アルコールが体質に合わない方や病気の方への配慮からです。また、仙台教会の主の晩餐は、仙台教会員のみならずイエスを主と告白するすべての者に開かれています。

### 「会衆主義」

万人祭司主義の立場に私たちは立ち、教会員一人ひとりが等しく神に直接出会っている者として、自覚と責任を持って教会の事柄に関わることを重視します。仙台教会の最高意思決定機関は総会です。また牧師と一般信徒の間には、何の上下関係もありません。ただ、教会から委ねられた職務ゆえに、牧師は宣教と牧会において特別な使命を担います。

### 「終末」

終末とは救いの完成の時です。終末の第一の意味はイエス・キリストがもう一度私たちのもとに来られるということです。それは恐怖の時ではなく、希望の時です。神の審判はその先取りとして、イエス・キリストの十字架と復活において起こっています。そこで私たちに与えられたのは救いの出来事でした。そのイエスが再臨されます。その時、神の国が実現し救いが完成します。

## <参照聖句（新共同訳聖書より）>

### （信仰告白）

マタイ 16 : 16、ヨハネ 4 : 41~42、ローマ 10 : 9、I コリント 12 : 3、フィリピ 2 : 11、I テモテ 6 : 12

### （イエス・キリスト）

詩編 110 : 1、イザヤ 53 : 1~12、マタイ 5 : 17、マタイ 11 : 2~6、マルコ 1 : 10~11、マルコ 8 : 27~33、ヨハネ 1 : 1~18、ヨハネ 14 : 6、使徒 2 : 36、I コリント 15 : 3~5、コロサイ 1 : 15~20、I テモテ 2 : 5~6、ヘブライ 5 : 7~8

### （聖書）

詩編 119 : 105、ルカ 24 : 25~27、ヨハネ 5 : 39、ヨハネ 20 : 31、I コリント 15 : 3~5、II テモ

テ 3 : 14~17

**(父・子・聖霊として働かれる唯一の神)**

マタイ 28 : 19、ヨハネ 13 : 20、ヨハネ 14 : I ~31、I コリント 8 : 6、I コリント 12 : 4~6、II コリント 13 : 13、ガラテヤ 4 : 4~6、エフェソ 3 : 14~21、エフェソ 4 : 4~6

**(神)**

創世記 1 : 1、17 : 1、出エジプト 3 : 13~15、申命記 32 : 4、イザヤ 43 : 11、45 : 7、63 : 16 b、詩編 90 : 2、147 : 5、マラキ 3 : 6、マルコ 10 : 27、ヨハネ 3 : 16~17、使徒 17 : 24~28、I コリント 8 : 6、黙示録 4 : 11

**(聖霊)**

詩編 51 : 12~14、イザヤ 11 : 2、ヨハネ 14 : 16~17、ヨハネ 15 : 26、使徒 1 : 8、使徒 2 : 1~4、ローマ 5 : 5、I コリント 12 : 3、ガラテヤ 5 : 22~25

**(人)**

創世記 1 : 27、2 : 7~8、2 : 18~25、ローマ 5 : 12~21、エフェソ 2 : 1~3

**(罪)**

創世記 3、4、6、11、詩編 19 : 13~14、51 : 5、イザヤ 53 : 6、ヨハネ 8 : 34、ヨハネ 9 : 41、ヨハネ 15 : 22、ローマ 1 : 18~32、ローマ 3 : 23~24、ローマ 5 : 12、ローマ 6 : 23、I ヨハネ 1 : 8~10

**(救い)**

出エジプト 15 : 2、イザヤ 44 : 22、エレミヤ 31 : 34、エゼキエル 18 : 32、マタイ 10 : 22、マルコ 2 : 17、マルコ 8 : 34~35、ルカ 19 : 9、使徒 4 : 12、ローマ 5 : 18、ローマ 6 : 2、ローマ 3 : 24、II コリント 5 : 19、II コリント 6 : 2、エフェソ 1 : 10

**(命の道)**

ヨハネ 5 : 24、17 : 3、ローマ 6 : 8~9、6 : 23、I テモテ 6 : 12

**(教会)**

マタイ 16 : 18~19、マルコ 3 : 31~35、ヨハネ 15 : 1~11、使徒 2 : 42、11 : 21~26、ローマ 12 : 4~5、I コリント 12 : 27~28、エフェソ 1 : 17~23、エフェソ 2 : 19~21、4 : 1~16

**(礼拝)**

詩編 59 : 17~18、マタイ 4 : 10、ヨハネ 4 : 24、ローマ 12 : 1~2、I テサロニケ 1 : 5、ヘブライ 10 : 24~25

**(バプテスマ)**

マルコ 1 : 9、使徒 2 : 38~42、使徒 8 : 12、ガラテヤ 3 : 26~27、エフェソ 4 : 5~6、コロサイ 2 : 12

**(主の晩餐)**

マタイ 26 : 26~28、マルコ 14 : 22~24、ルカ 22 : 14~20、ヨハネ 6 : 53~57、I コリント 10 : 16~22、I コリント 11 : 23~29

**(福音宣教)**

マタイ 28 : 19~20、マルコ 1 : 15、ローマ 10 : 14~17、I コリント 1 : 23~24、II コリント 2 : 17、I テサロニケ 1 : 5

**(政教分離)**

出エジプト 20 : 3~5、申命記 5 : 7~9、ダニエル 3 : 18、マタイ 22 : 15~22、マルコ 12 : 13~17、ヨハネ 17 : 14、使徒 4 : 19~20、ローマ 12 : 2、13 : 1~7

**(国家)**

ダニエル 7 : 13~14、イザヤ 32 : 1、33 : 22、ミカ 3 : 1、マタイ 6 : 10、使徒 4 : 19、使徒 5 : 29、I テモテ 2 : I ~4、I ペトロ 2 : 13~14

**(希望)**

詩編 130 : 6、ローマ 5 : 1~11、ローマ 15 : 13、I コリント 13 : 13、ヘブライ 11 : 1~40、I ペトロ 3 : 15

**(終末)**

マタイ 25 : 31~46、フィリピ 1 : 6、I テサロニケ 2 : 19、I テサロニケ 4 : 13~18、I テサロニケ 5 : 23~24、黙示録 21 : 1~5、黙示録 22 : 20

(参考資料)

## 日本バプテスト仙台基督教会信仰告白 (改訂前)

(教会組織時に、日本バプテスト連盟信仰宣言 (旧) を仙台教会の信仰告白として採択)

### 一、 聖書の権威

聖書は神の感動によるもので、神の人類救済の聖意思を示し、我等の信仰と実践の唯一無比、完全にして真実なる標準たることを信ずる。

### 二、 真の神

我らは唯一にして真なる生ける神を信ずる。神は無限にして全知全能遍在の霊にして、天地の創造主、而して聖きと愛の完全なる具顕者、又父、子、聖霊なる三位一体の神に在し、人類救済の業と天地の支配に於いて完全なる人格を顕わし給うものなることを信ずる。

### 三、 人間の堕落

我ら人間は神の像にかたどり、聖く創造せられたが、神への不従順により罪に堕ち、永遠の滅亡に定められたことを信ずる。

### 四、 贖罪と義認

神は、処女マリヤより生まれし神の独子イエスを賜う程に世を愛し給う故に如何なる罪人もイエスの贖罪の死と復活を信ずる信仰によりてのみ全き救を受け、永遠の生命に至る。これは神の恩寵のみによるものにして人の業にあらざるを信ずる。

### 五、 悔改、信仰、新生、聖化、選び

人は救われるためには真剣なる罪の悔改とイエスを救主と信ずる絶対信仰により再生しなければならぬ。同時に我らに働く聖霊の啓導によりて新生の経験をなし、ここより完全なる霊化に与かることを信ずる。又神の選びは神の永遠なる目的にして、罪人の新生、聖化、救済の業は行われ、福音を信ずる結果によってこれを確認し得ることを信ずる。

### 六、 新約教会

基督教会は福音を信じてバプテスマを受けたる信者の自主的集会にして聖なる交わりをなし、礼典を守り、聖支配に従いキリストの言葉にしめされたる賜与、権利、恩恵とに与かる。新約教会の役員は牧師と執事であり、その職能はテモテ書、テトス書が示すところである。

### 七、 バプテスマと晩餐

バプテスマは父、子、聖霊の名によりて行われる信仰者の水の浸礼なることを信ずる。この形に於いて十字架にかけられ死して葬られ甦り給える主イエス・キリストを信ずる我らの信仰を表わし、この主イエス・キリストのいさおしにより我ら罪に死に新しき生命に甦りたるを象徴する。しかしてバプテスマは教会の交わりに入る不可欠の礼典である。又我らは主の晩餐を礼典として守り、パンと葡萄酒を用い、厳格なる自己反省を以てこれに与り基督の犠牲的愛を記念し、同時に主の再臨を待望するものである。

### 八、 主の日

我らは一週の始の日 (日曜日) を主の日として基督の復活を記念し、この日を宗教的目的のため又各個の魂のために聖く守るべきものなることを信ずる。

### 九、 教会と国家

国の政府は神の定め給えるものにして、人間社会の安寧秩序のためなることを信ずる故に、我らは、我らの良心の唯一の主にして王の王たるキリストの御旨に反せざる限り、国家政府のために祈り、良心的にこれを敬しこれに従うべきものなることを信ずる。

## 十、 来生

我らはこの世の終末の来ることを信ずる。この時キリストは世を審き邪悪は永遠の滅亡に、義人は永遠の喜悦に定められる。この審判により神はその義に基づき人間を永遠に天国又は地獄に定めたもうことを信ずる。

### <参考聖句>

- 一、Ⅱテモテ 3・16～17、Ⅱテモテ 3・15、ピリピ 3・16
- 二、ヨハネ 14・24、黙示録 4・11、マタイ 28・19、Ⅱコリント 13・4
- 三、創世記 1・27、3・6～24、ローマ 1・18、3・19、5・19
- 四、エペソ 2・8、ヨハネ 3・16、ピリピ 2・6～7、イザヤ 42・21、53・4～5、  
ヘブル 7・25、ローマ 5・12、17
- 五、マルコ 1・5、エペソ 2・8、Ⅰヨハネ 5・1、ヨハネ 1・13、3・8、エペソ 5・9  
Ⅱテモテ 1・8～9、Ⅰテサロニケ 4・3、ローマ 8・5
- 六、Ⅰコリント 1・1～13、Ⅰコリント 11・2、マタイ 28・20、エペソ 4・7
- 七、使徒 8・36～39、マタイ 28・19、ローマ 6・4、Ⅰコリント 11・26、28
- 八、使徒 20・7、11・26、出エジプト 20・8、イザヤ 58・13～14
- 九、ローマ 13・1～7、マタイ 22・21、使徒 5・29
- 十、Ⅰペテロ 4・7、使徒 1・11、24・15、マタイ 13・49、25・31～46、  
Ⅱペテロ 3・11～12